

大雨による建物被害375件に拡大、農業用施設も

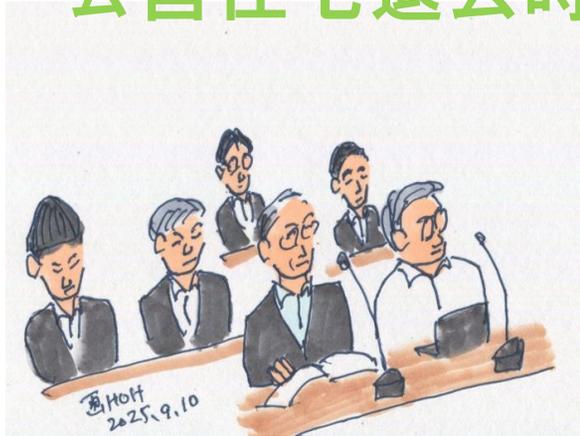
9月3日の大雨による被害は調査が進むに伴い、件数が大きくなるのびてきています。

市の担当課のまとめによると、10日の午前11時現在、人的被害は1件、建物被害は375件にもなりました。建物被害のうち、住家については床上浸水が38件、床下浸水は199件です。公共施設被害は9件です。この他、道路被害は93件、農林水産被害105件となっています。

私は災害が発生した3日は当初の予定を変更し、吉川区内、頸城区内の道路、田んぼの冠水状況を見て回りました。また、数日後、国府地内の建物、道路被害を見てきました。右の写真は国府2丁目地内の通学路の状況です。泥だらけですので、まともに歩けない状態となっていました。まだまだ大気は不安定です。雨が降るたびに被害は拡大するかも知れません。何かお困りのことがございましたら、下記の私の連絡先にお知らせください。



公営住宅退去時の負担軽減めざし研究へ



「公営住宅を退去する時に畳替えなどが求められているがその負担は最低でも20万円、なかには70万円かかる人もいる」「退去時のチェックは14項目にも及ぶ。このチェックが厳しく、苦痛だ」という声がある。

10日の農政建設常任委員会で本城委員が公営住宅を退去する時の負担の重さやチェックの改善を求めました。担当課長は、「私としても高額だと感じているところもある。公営住宅を持っている県や市町村と情報交換しながら、研究をしてまいりたい」と答えていました。

今回のやりとりで関係者の負担が軽減される方向が見えてきました。ぜひ実現させたいものです。



【アメリカタカサブロウ】(再掲)キク科の一年草。漢字で「亜米利加高三郎」と書きます。草丈は20センチから70センチ。わが家の牛舎があったころ、そのそばで見つけたのが最初です。道端やちょっとした湿地、荒地にあります。花期は8月から10月、小さな白い花をたくさん咲かせます。花言葉は「いつかきっと」です。写真は3日、吉川区代石の市道脇で撮りました。

福島第一原発の事故究明もできていないのに、政府、財界は東京電力柏崎刈羽原子力発電所を再稼働させようと必死になっています。また花角知事は、これからの動きに合わせて、再稼働を誘導するような県民アンケートを始めています。まさに重要局面です。

午後、柏崎市文化会館アルフォーレで開催されます。集会では、県民投票運動の先頭に立ってきた水内元成弁護士がこれまで運動と再稼働問題で報告を行う他、「おしどりマコ・ケン」が原発問題についてわかりやすく語ります。また、集会後、パレードもあります。大いに盛り上げ、知事に原発再稼働ノーを働きかけましょう。

知事は原発再稼働にノーの判断を！ 21日に柏崎で「なくそテ原発」柏崎大集会

はしづめ法一の活動レポート

No.2219 2025.9.14
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3627
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八六六回

解体工事

叔母や叔父などが住んでいた後生寺の「はずれ」(屋号)の解体工事はお盆前から始まってもうすぐ終わりを迎えます。

「はずれ」は県道のそばにあって、車庫、物置小屋、住宅、土蔵兼作業場の四つの建物がありました。工事は道路に近い車庫から始まって、お盆前には車庫と物置小屋の工事が終わりました。その後、一番手間がかかった住宅の解体に入り、最後は一番奥の土蔵兼作業場へと進みました。

工事現場はたいがい朝早く見に出かけたのですが、行きたびに、いろいろな思い出が脳裏をよぎりました。

思い出したことの一つは私が子ども時代に何度か「はずれ」を訪ねたことです。

叔母は「はずれ」に嫁ぐ前にどのくらいの期間だったかわかりませんが、わが家に住んでいたようです。ずいぶんかわいかったもったこともあって、叔母が嫁ぐことがわかった時は切ない気持ちでいっぱいでした。ということもあって、祝言が終わってそう時間の経たないうちに、私は歩いて叔母の家をめざしました。それが私が「はずれ」を訪れた最初だったと思います。誰と一緒にいったかは、まったく記憶にありません。時期的には一九五〇年代の後半から六〇年代の前半です。

「はずれ」までのルートは、わが家があった蛸場から高沢入に出て、いまは誰も通らないであろう杉林の中の道を通って、平等寺に出ました。そして東寺、入連坊を通り抜け後生寺に行きました。

何度か叔母の家に行ったのだと思います。鮮明に覚えているのは峠である入連坊に着いた時のうれしさです。そこから細長い後生寺の集落が見えた時は、「ああ、あそここの奥に叔母の家がある」とうれしくなったものです。

私が故郷に戻ってからまたたび「はずれ」に行きました。味噌麴店をやっていた

こともあって、叔父や叔母はいつも忙しうでした。でも私が行くと、必ずお茶を勧めてくれ、ゆっくりとした時間を過ごさせてもらいました。

その叔母が急病で救急車で運ばれた日のことはいまでも忘れることができません。夕飯時だったと思いますが、叔父から電話が入り、「すぐ来てくれ」と言われたのです。私は牛舎で搾乳中、すぐには行けず、搾乳に区切りをつけてから柿崎病院へ車を走らせました。でも、反応は無く、翌日には亡くなったのです。まだ六八歳でした。

叔父はその後、一人暮らしとなりました。家事をじつによくこなし、家中きれいにしていました。私が訪問した時、仏壇の叔母の遺影を見てみると、「いい顔してるねかね、いつまでも若いし……」そう叔父が言うものですから、「それを生きているときに言ってくれば良かったが」と言っています。二人して笑ったものです。

叔父はその後五年間、グループホーム癒しの家柿崎に入所して晩年を迎えました。忘れられないのは三年前の五月三日の夕方のことです。施設のスタッフから私に電話が入り、これから救急車で高田の病院へ行くこと連絡がありました。このときは、間に合うようにと車を飛ばし、三十数分で病院に着きました。叔父を乗せた救急車よりも早く着いたので自分でもびっくりしたのですが、うれしかったのは、救急車から担架で病院に入ってきたときです。叔父は私の顔を見たとき、「ああ、良かった」と言って喜んでくれたのです。この言葉は叔父が私に発した最後の言葉となりました。

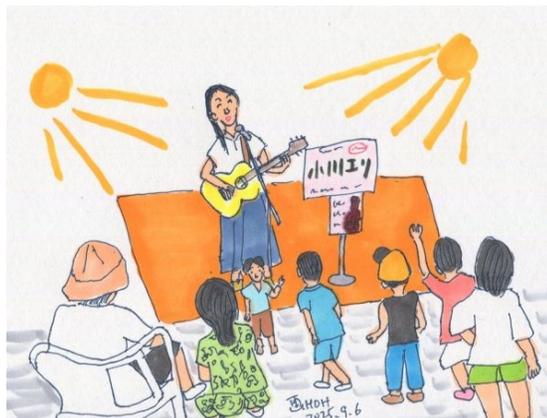
数日前、解体現場へ行った時、椅子の上に見覚えのあるたばこの吸い殻入れが置いてありました。作業の人が使っていたのでしようが、私には叔父が大好きだったタバコを吸いながら、解体の様子を見に来たように思えました。叔父さん、終わるよ。

吉川テラス、にぎわう

9月6日、夕方には吉川テラスでした。これまでは越後よしかおやっただ祭りの前の、7月に原え町商店街でやっていたものですが、今年は9月の第一土曜日開催でした。これが当たりましたね。雨は降っていないし、暑くもないTシャツ姿で出かけたのですが、遅い時間帯になったら寒いくらいでした。

会場では同級生や友人などとたくさん出会い、楽しく交流しました。もちろん飲み食いもしました。この日のイベント限定の商品券を購入していましたから、そばやトコロテン、トウモロコシなどを食べ、生ビールも久しぶりに飲みました。大湊区からも商工会関係者などが参加されていて、声をかけていただきました。ありがとうございました。

会場にはデジカメも持参したのですが、どういうわけか上手く撮れず苦戦しました。右上のイラスト



トは今回も司会をした小川エリさんです。オリジナルソング、「乾杯」などをパワフルに歌っておられました。その下のイラストはフラダンスです。胸のふくらみが上の方にずれてしまいました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月3日(水)	9月10日(水)
上越消防署	0.057	0.050
上越南消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.067	0.070
東頸消防署	0.060	0.043
名立分遣所	0.067	0.063
高士分遣所	0.050	0.057